

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.29 (1997.6.6号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1998.6.9. ; 8,[2]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

<震災支援>

阪神大震災はまだ終わっていません!!

1995年1月17日、一瞬にして「家族」「家」「健康」「仕事」を失くした人たち、今なお、仮設、避難所、さらに県外に避難している十数万にものぼる人たち...

仮設から復興住宅へ。自助努力をくり返しても「家族」「健康」「仕事」は回復せず、3年半の仮設、避難所生活で得た知人の足も遠のき、以前にもまして孤立化がすすんでいます。個人の限界をこえれば、当然、公的な補償と、地域のコミュニティづくりにもボランティアの協力が必要になってきます。NPO法案や災害支援法にはまだそこまでの内容が伴われておらず、今後修正が必要です。

一つの試みとして、地域の高齢者と子供たちをつないで助け合いのコミュニティを作るために、「全国文通文集」の配布を地元の小中学校に呼びかけています。すでに3千通をこえる便りが届き、中には、愛知県から時折々に寄せられる自作の絵葉書を心待ちにする方々もおられるほど定着してきています。また県外から支援する小中学校もふえ、すでに紹介した大阪の松原第三中学校は、その継続的取り組みにより第1回「全国青少年ボランティア・コンクール」ベスト10に選ばれ、被災地でもボランティアの間でも大きな励みになっています。

災害を共通の課題としてとらえ、大震災を風化させず、さらに支援の輪を広げ、多くの社会的取り組みとも連帯していくために、当協会では6/17~20の東京、横浜を皮切りに「震災チャリティ美術展」でのパネル展、チャリティバザー、それに街頭募金や文通の呼びかけを通じて全国にアピールしていきます。今後共、カンパ支援をお願いします。

<鄭チョン>

[写真あり 被災地の仮設住宅を訪ね、部屋の掃除を手伝う松原第三中学校3年生 省略]

ボランティアさんが作るページ!

はじめまして、ただ今高校1年生の安沢まゆと高橋優です。私たちがボランティアをはじめたのは中学2年生の頃コリアボランティア協会の方々と出逢ったのがきっかけです。コリアの方たちと神戸の仮設住宅で暮らしておられるお年寄り方を中心にボランティア活動をしてきました。ボランティアをしているとたくさんのお出逢いがあるいろんなことを学びます。まだまだはじめたばかりで偉そうなことなんて言えないですが、ボランティアは、やっていて楽しいし、気持ちが落ち着きます。だから、ボランティアは、私たちに欠かすことのできないもので

す。
これからもがんばりますので宜しくお願いします。

阪神淡路大震災仮設住宅支援ボランティアを支える

チャリティ・コンサート

～笛の楽園～【報告】

(ルネッサンス、バロック時代のフルート、リコーダーの音楽を中心に)

'98.5.16(土) 3じ～5じ

被災地で共に活動をするキリスト教の牧師さんと友人の方が企画して下さったコンサートに、当日雨のそば降る中約30名程の聴衆が集まりました。虹の様に豊かな音色をたっぷりと聴き、しばしゆったりした、気分にはたりました。奏者の方々、又チケット協力して下さった方、参加下さったボランティアのみなさん、ありがとうございました。

(c)1998コリアボランティア協会編集部(デジタル化：神戸大学附属図書館)